

平成25年度事務事業評価調査

整理番号	8	枝番	1
評価担当課	こども未来課こども未来係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	母子通園運営事業			
総合計画の位置づけ	有	基本目標	2	安心して健やかに暮らせるまちづくり
	無	主要施策	3	子育て支援の推進
		基本事業	2	障がい児福祉の充実
		実施計画事業	1	療育体制の充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	発達に不安を抱えるお子さんをお持ちの保護者の相談窓口として、発達の遅いお子さんの療育を行い、成長の手助けをする専門機関として運営する。			
対象(何を又は誰を)	発達支援が必要な就学前までの児童。			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	親子で通園していただき、1日90分間の療育を必要回数行う。健診へ出向き相談を受けたり、市内保育所・幼稚園より要望があれば出向き、相談を受ける。			
意図(どのような成果を期待しているか)	最善の方法で療育を行い、成長の手助けをする。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 <input type="checkbox"/> その他(4町村より負担金を徴収) <input type="checkbox"/>
事業実施期間	始期	平成8年度	終期設定	有(終期年度) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>
根拠法令・条例等	名寄市総合療育センター条例			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位					目標年度 (年度)
			H22	H23	H24	H25見込	
活動指標	1 健診での確認件数(市外含む)	目標				630	
		実績	286	593	637		
	2 未通所児相談件数(市外含む)	目標				220	
		実績	67	250	218		
	3	目標					
		実績					
成果指標	1 通所児童延件数(市外含む)	目標				2000	
		実績	1,972	2,238	1,956		
	2	目標					
		実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H22決算	H23決算	H24決算	H25予算	平成24年度の事業費内訳	
事業費	27,034	27,546	24,901	25,872	コストの算出方法 総事業費中一般財源/通所児童延件数	
国道支出金	1,320	1,347	1,347	1,334		
地方債	0	0	0	0		
その他	19,393	19,423	16,965	19,739		
一般財源	6,321	6,776	6,589	4,799		
人件費	0	0	6,629	6,629		
平均給与額	6,608	6,683	6,629	6,629		
担当職員数	0.00	0.00	1.00	1.00		
総事業費	27,034	27,546	31,530	32,501		
対前年比(%)	—	102	114	103		
事業コスト	活動指標1	3	3	3		2
	活動指標2					
	活動指標3					

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	携わった児童がスムーズに就学できるよう、教育委員会等関係機関と連携を強化してきました。
改善点	指摘事項 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( ) <input type="checkbox"/> 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 4 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	子どもの成長に不安を抱える保護者のため相談できる窓口を設置し、必要に応じて支援していく体制を整える必要があると考えます。
有効性 4 目的を達成するための方法として有効か？	a	児童福祉法に準じて運営しており、利用実績から見ても十分効果を上げていると考えます。
効率性 4 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	一般財源ベースで3,000円/1件の経費となっており、福祉サービスとして低コストで効果を上げていると考えます。
公平性 4 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	児童福祉法に準じて利用料を徴収しており、問題は無いと考えます。
達成度 4 活動指標、成果指標の達成度は？	a	通所児童延件数も安定した利用数があり、ニーズと供給体制のバランスは良好と考えます。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	今後も継続の必要な事業である。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

7 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	今後も必要な事業であり、継続した取り組みを進める。